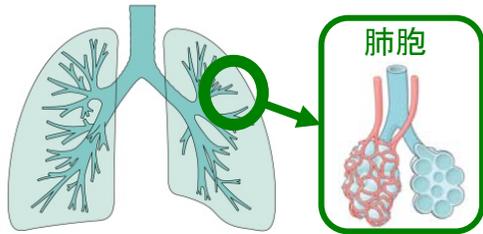


平成 21 年 10 月 1 日

日本における死亡原因の1位は悪性腫瘍（がん）であり、3人に1人が“がん”で死亡しているのが現状です。そのなかで最も多いのが肺がんです。今回は、「肺がん」についてお話ししたいと思います。

● 肺のはたらき

肺は、空気中の酸素を血液中に取り込んで、逆に体内で不要な二酸化炭素を体外に排出するはたらきをしています。



のどからの空気の通り道である気管は、樹木の幹のように気管支として分岐し、左右の肺に入り、約20回以上も枝分かれして酸素を交換するブドウの房のような肺胞という場所まで行きます。

肺胞では薄いカーテンのような膜を通して、酸素が毛細血管の血液中を流れる赤血球に受け渡され、酸素の豊富な血液が肺から心臓に戻り、全身にいきわたることになります。

肉眼で見る肺は、お菓子のカステラのように目の詰まったふわふわした組織です。酸素を効率よく交換するため、全肺胞の表面積はとて広く、テニスコート半分くらいあると言われています。

このほか、肺は薬物などの代謝・排泄作用も担っています。

● “がん”とは？

がんとは、体の中の正常な細胞が変異を起こすことによって発生した、異常な細胞（がん細胞）の集団のことです。がん細胞は、人間の体に備わっている正常な制御機構を無視して、無秩序に増殖します。また、他の正常な臓器に転移して増殖をくり返し、その臓器の機能を奪ってしまいます。

★**正常な細胞**・・・寿命があり、一定以上は増殖しない

★**がん細胞**・・・無秩序に増殖をくり返す

● “肺がん”とは？

肺から発生したがんのことを肺がんといい、正確には原発性肺がんと呼びます。これに対して、例えば乳がん、肝がんなど他の臓器に発生して肺に転移した場合は、転移性肺がんと呼び、原発性肺がんとは違う扱いをします。がんの進行の仕方や治療に対する感受性は、もともと発生した臓器の特徴をもつため、原発性肺がんと転移性肺がんでは、検査の種類や治療方法が異なります。

● 肺がんにもみられる初期症状

肺がんでは、咳・痰（たん）・血痰（けつたん）・呼吸困難・胸痛などの症状が見られることがあります。しかし、これらの症状は肺がん特有のものではなく、気管支拡張症、気管支炎または心臓病などにも見られます。気になる症状がある場合は、早めに検査を受けるようにしてください。



● 肺がんの原因は？

肺がんの原因はまだ不明です。喫煙によって、タールなどに由来する多くの化学的発がん物質が身体に入り、肺がんの原因、あるいは誘因になっていることがわかっています。そのほか、特殊な発がん物質として、ラドンガス、ディーゼル粒子、職業性のクロム化合物、石綿などがあります。

● 肺がんは予防できるか！？

原因を絶つという意味での予防としては、現在は禁煙しかありません。喫煙者が肺がんになる危険率は非喫煙者の10～20倍程度高いといわれています。

英国・米国では、徹底した禁煙運動の開始から20年を経過し、数年前から肺がんによる死亡率の減少という成果が目に見えてきています。禁煙することで、肺がんの危険性が低下し、また、禁煙年齢が低いほど、その効果が大きいことがわかっています。



● 治療

肺がんの治療には通常、手術・放射線療法・薬物療法が行われます。肺癌の種類（組織型）や進行度（病期）、患者さん個人の状態（年齢、体力、合併症など）に応じて治療法を選択します。

また、がんの苦痛を和らげる治療として緩和医療があります。最近では、がん末期に限らず、早い段階から癌の苦痛を和らげるよう多くの病院で緩和医療が導入されています。

患者さんの症状や治療に対する思いは、主治医の先生が治療方針を考える際に、とても重要な要素となります。些細なことも必ず伝え、疑問に思ったことは確認し、納得して治療をすすめることが大切です。

- <参考>
- ・厚生労働省 平成17年人口動態統計
 - ・ハンドブック よくわかる肺がん Q&A
(特定非営利活動法人西日本胸部腫瘍臨床研究機構 WJTOG 発行)
 - ・肺がん向き合うために (アストラゼネカ 2004年4月作成)
 - ・肺癌診療ガイドライン 2005年版